

あいち農産物生産流通レポート

2022年10月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ ブロッコリーのホウ素適正施用技術を開発 (農業総合試験場)	1
◎ 地域トピックス	
・ ジビエの森大感謝祭が開催されました (新城設楽農林水産事務所)	2
◎ 東日本情報	
・ 2021年度京浜市場での愛知県秋冬野菜の 販売結果及び提言(その2) (東京事務所)	3
◎ 西日本情報	
・ 愛知県産ブランド米「愛ひとつぶ」について (園芸農産課)	5
・ インバウンド向け農業観光ルートの創出に向けた取り組み (食育消費流通課)	6
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	7
・ 名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し	8
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の10月の見通し(県内市場)	20

※今月「フラワーページ」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

ブロッコリーのホウ素適正施用技術を開発

農業総合試験場

愛知県は全国有数のブロッコリー産地ですが、栽培現場では、ホウ素欠乏による障害が問題となっています。ホウ素が欠乏すると、花蕾にかさぶたのような木質化症状が発生し、商品価値が下がります。その対策としてはホウ素肥料の施用が有効ですが、ホウ素は必要量が微量である上、適正範囲も狭いため過剰症の懸念があり、施用には注意が必要です。



ブロッコリーのホウ素欠乏

そこで、ホウ素の種類、施用量を変えたホウ素肥料の連用試験を行い、ホウ素の適正施用技術の開発に取り組みました。

1 試験内容

2019～2021年に、ホウ素の種類（水溶性、ク溶性*）と施用量を変えた試験区を設置し、ブロッコリーを4作栽培しました。試験区はホウ素を施用しない「ホウ素無施用区」、水溶性ホウ素を240～280 g/10 a（1作当たり、 B_2O_3 として。以下同じ。）施用する「水溶性-標準量区」、ク溶性ホウ素を240～300 g/10 a施用する「ク溶性-標準量区」、水溶性及びク溶性ホウ素を合わせて540～580 g/10 a施用する「倍量区」の4区を設け、ホウ素欠乏症発生割合、花蕾ホウ素濃度、土壤中可給態ホウ素含量の推移を調査しました。

※2%クエン酸に溶ける成分で、水溶性の成分とともに植物が吸収・利用できるもの。

2 試験結果

ブロッコリーのホウ素欠乏症はホウ素無施用区でのみ発生しました（表1）。

水溶性-標準量区、ク溶性-標準量区では、栽培期間中のほとんどで土壤中可給態ホウ素含量は土壌診断基準値未満でしたが、ホウ素欠乏症は発生しませんでした。ホウ素を施用する区では花蕾ホウ素濃度がホウ素無施用区に比べ高くなり、ホウ素の施用効果が認められました。

倍量区では、土壤中のホウ素濃度は基準値内へと上昇した一方、花蕾ホウ素濃度は水溶性-標準量区、ク溶性-標準量区と同程度で、過剰症発生の可能性は低いと考えられました（表1、図1）。

以上より、①土壌診断基準値以下のほ場でも、標準量のホウ素を施用することで欠乏症予防になること、②土壤中のホウ素含量を高めるためには倍量施用が有効であり、その場合でも過剰症発生の可能性は低いことが明らかになりました。

本研究は、愛知県経済農業協同組合連合会との共同研究で実施しました。

表1 欠乏症発生割合と花蕾ホウ素濃度

試験区	欠乏症発生割合 (%)	ホウ素濃度 (ppm)
ホウ素無施用区	75	7.4
水溶性-標準量区	0	38.8
ク溶性-標準量区	0	25.7
倍量区	0	32.2

注) 2021年春夏作（4作目）

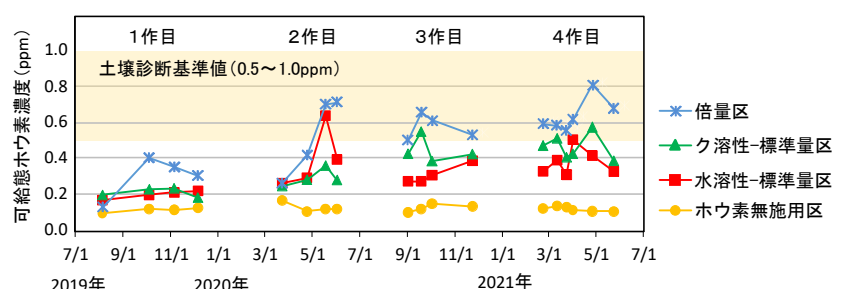


図1 土壤中可給態ホウ素含量の推移

ジビエの森大感謝祭が開催されました

新城設楽農林水産事務所農政課

7月10日(日)に奥三河高原ジビエの森で、「ジビエの森大感謝祭」が開催されました。新型コロナウイルスの影響により2年連続で中止となっていたため、約3年ぶりの開催となりました。

1 奥三河高原ジビエの森とは

奥三河高原ジビエの森では、奥三河で捕獲された鹿や猪の搬入・加工処理を行い、ジビエ肉として供給をしています。有害鳥獣をジビエに利用することにより、地域の食文化の活性化だけでなく、地元の獣害対策にも大きく貢献しています。



ジビエの森直売所

2 ジビエの森大感謝祭

会場では、鹿のスライス肉、スネハム、ジャーキー、ソーセージや缶詰各種が定価の2割引で販売されました。

また、店頭では先着50名で和風鹿スープの無料配布のほか、鹿肉のフランク、焼き肉、唐揚げの販売もあり、普段からジビエを食べている人から初めて食べる人まで、多くの来場者がジビエ料理を堪能する様子が見られました。

さらに、希望者は解体処理施設内の見学もでき、普段は見るできない鹿の搬入室にも入ることができました。

当日はあいにくの小雨でしたが、県外から来られている方々も多く、老若男女問わず、気軽にジビエ料理を楽しむことのできるイベントとなりました。

なおジビエの森は、奥三河地方で開催される様々なイベントにも出店をしていますので、奥三河へお立ち寄りの際は、ぜひジビエをお召し上がりください。



和風鹿スープ



鹿の焼き肉

3 今後の取組

近年、鳥獣害対策の一環としてジビエ料理への利用が促進されていますが、まずはジビエ料理を体験していただく、それがジビエの需要を高め、認知度を向上させる第一歩だと考えます。県としても、今後も各種イベント等の情報発信に努めていきたいと思っております。

2021年度京浜市場での愛知県秋冬野菜の販売結果及び提言（その2）

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

前月に引き続き、京浜市場愛知県野菜連絡会（会員会社：首都圏の青果卸売会社 30 社）による秋冬野菜販売反省会で報告された販売概要や提言から、キャベツ及び洋菜の主要品目であるブロッコリーについて取り上げます。

1 キャベツ

（1）2021年作の販売経過

年内の販売は茨城・千葉・神奈川・愛知が中心で、各産地とも潤沢な出荷のため価格低迷でスタートしました。年末は 900-800 円/10kg 箱（90-80 円/kg）での販売となり、コロナ禍による移動自粛の中にあって首都圏中心に荷動きは比較的良好でした。年明けの残量は平年より少なくスムーズにスタートし、低温・干ばつの影響で小玉の出荷となって数量減の中、価格は上昇しました。3月以降は、神奈川の三浦産の出荷が遅れたため愛知中心の販売が続き、高値基調の販売が継続されました（図1）。

加工業務は、納品先の休業や時短営業が続き、荷動きがシーズンを通して良くありませんでした。

（2）現状及び提言

ア 業務契約

- ・加工向けを含めたキャベツ産地間の競争が年々激化している
 - ・卸売会社は1年を通じて加工業者に販売する中、品質面で愛知県産は評価が高いものの、客の中には安価な他県産にシフトする動きがある
 - ・一旦、他県産に流れた客は戻らない
- ・業務契約のウェイトを維持するために、他県産と足並みを揃えた価格設定をして欲しい

イ 相場形成

- ・卸売会社は長期にわたって愛知県産を使っている
 - ・入荷量が多い時期に客へ売り込んだ結果として注文数が多いときに価格が高騰することがある
- ・「愛知のキャベツを消費者に届ける」という考え方の元、産地と卸売会社の双方が納得できる、実需に見合った相場を卸売会社と共に形成してもらいたい
- ・系統だからこそできる販売を一緒に考え、固定顧客獲得に向けた販売を産地と一緒に進めたい

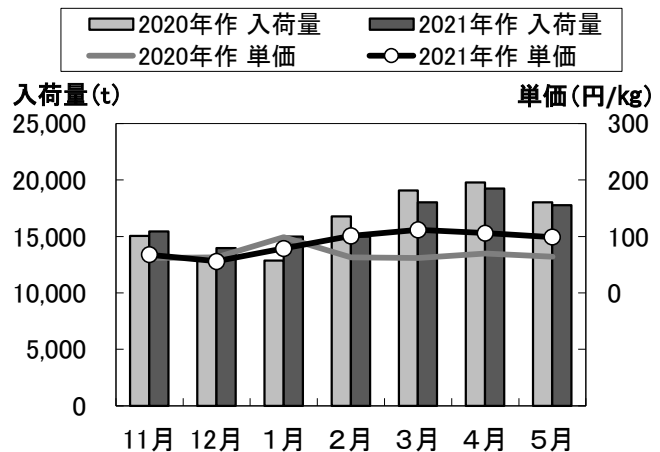


図1 東京都中央卸売市場(全市場)のキャベツの入荷量と単価

ウ 目標の設定

- ・具体的な販売目標の提示がない
 - ・月ごとの出荷計画と、再生産価格に基づいた目標単価から算出された、シーズン合計の販売金額を明確にしてもらうことで、産地の発展に向けて卸売会社はより一層協力しやすくなる
- ・産地と卸売会社が、愛知県産キャベツをしっかりと販売していくための指針として、販売目標を提示してもらいたい

2 ブロッコリー

(1) 2021年作の販売経過

年内は近在産地と秋冬産地の出荷が重なることもなく、順調な販売となりました。年明けは低温・干ばつの影響で全国的なピークが2月下旬～3月中旬にずれ込み販売に苦戦しました。春作は、近在産地を含め大きなピークのない販売が続きました(図2)。

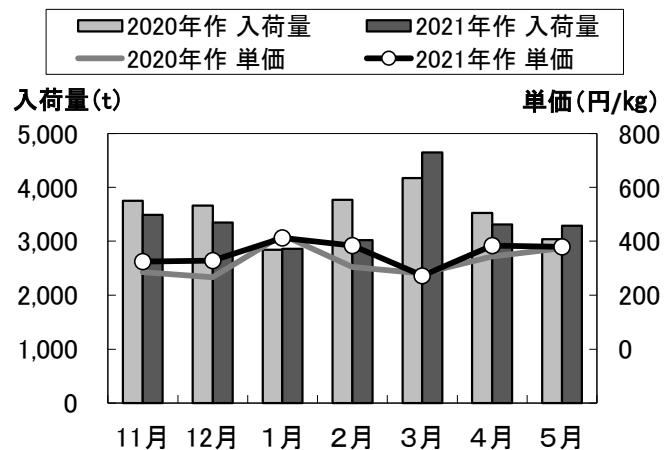


図2 東京都中央卸売市場(全市場)のブロッコリーの入荷量と単価

(2) 現状と提言

ア 客の要望に沿った出荷

- ・ブロッコリーは氷詰め出荷をしている産地が拡大し、愛知県産のシェアが減少傾向にある
 - ・以前は客が各階級をまんべんなく買ってくれたが、今は量販店中心の販売となり特定階級だけを欲しが
- ・顧客が求める等級・規格を把握し、産地で出荷を検討してもらいたい
- ・顧客が要望しているボリューム感のある8玉、10玉規格や、葉付きブロッコリーの出荷を増やしてもらいたい

イ ブロッコリーの対応

- ・ブロッコリーは氷詰めが基本となっている(愛知と埼玉、群馬は段ボール出荷)
 - ・量販は、年間を通して氷詰めで、できれば20玉入りを求めている
- ・愛知県産を求める顧客を確保していくための戦略の検討が求められる
- ・需要が高まっている葉付きブロッコリーの生産増により氷詰めとの差別化を図ることが重要である
 - ・クレームの多くなる暖候期に、安定した品質で出荷することが求められる

ウ 総合品目での対応

- ・近年、販売単価の面からレタス類を中心に生産が減っている
- ・愛知県産の強みは総合品目での対応であり、洋菜類全体の作付けを検討し、生産量を維持してもらいたい

愛知県産ブランド米「愛ひとつぶ」について

園芸農産課

愛知県は、県内の大規模稲作経営者やＪＡあいち経済連などの農業団体とともに、「愛ひとつぶ」ブランド化推進協議会（以下、協議会）を2017年に設立しました。協議会では、農産物検査等級1等及び玄米蛋白質含量6.4%以下など良食味につながる独自の基準を満たした水稻「なつきらり」をブランド米「愛ひとつぶ」として、2020年産から販売しています。

1 「愛ひとつぶ」の特徴

県農業総合試験場が高温耐性と良食味を併せ持つ水稻として開発した「なつきらり」のうち、厳しい独自基準を満たすものが「愛ひとつぶ」となります。「なつきらり」は、夏の高温による米の品質低下（米が白く濁る白未熟粒の発生）が少なく、外観が美しく、上品な甘みともっちりとした食感が特徴です。

2 「愛ひとつぶ」の知事名刺を活用したPR

県では知事名刺を活用した農産物のPRを行っており、今年度は10月と11月に「愛ひとつぶ」が選定されています。この期間中に「愛ひとつぶ」の生産者、農業者団体及び実需者が知事を訪問し、2022年産の生産及び販売状況などの報告を行います。

(1) 日時

2022年10月11日（火）午前11時45分から正午まで

(2) 場所

愛知県公館

(3) 主催

愛ひとつぶブランド化推進協議会

(4) 内容

- ・ 生産者等から生産状況等の報告
- ・ 知事「愛ひとつぶ」試食
- ・ 知事への「愛ひとつぶ」贈呈
- ・ 記念撮影



「愛ひとつぶ」のブランドマーク

3 「愛ひとつぶ」の販売

9月17日（土）から県内の量販店など600店舗以上で販売されています。

取扱予定店：Aコープ、ユニー、イオン、イトーヨーカドー、ヤマナカ、フィール、マックスバリュ、平和堂、ドミー、コープあいち、JA店舗等
（なお、取扱店舗は各スーパー等で決めています。）

販売形態：ブランドマークの入った専用袋（2kg 精米、5kg 精米、5kg 無洗米）
店頭精米方式販売（JAグリーンセンター等）

昨年までは期間限定販売でしたが、今年は通年での販売を予定しています。

また、販売3年目に当たり、新しいTVCMが9月10日（土）から11月27日（日）まで放映されています。

インバウンド向け農業観光ルートの創出に向けた取り組み

食育消費流通課

日本を訪れる外国人旅行者（インバウンド）に、県産農林水産物の消費を促すため、本県ではインバウンドにとって魅力的な農業観光ルートの創出を目指し、「農林水産物インバウンド需要拡大事業」に取り組んでいます。

1 ルートの選定

観光農園、直売所、飲食店、観光協会、旅行事業者、学識経験者、市町村等の様々なメンバーで構成される「農業観光ルート創出プロジェクトチーム」を2020年度に立ち上げ、“インバウンドにとって魅力ある農業観光とは？”等をテーマにプロジェクトチーム会議やセミナーを開催してきました（表1）。

2021年度には、県内事業者から農業観光ルート案を募集し、合計で9事業者から12ルートの応募がありました。

表1 農業観光ルート創出プロジェクトチーム
会議開催概要

開催日	内容
2020年12月10日	テストマーケティングの訪問先としてインバウンドに選ばれるポイント等
2021年8月19日	農業観光ルートのあるべき姿・ポイントの整理等
2022年3月1日	農業観光ルート案の紹介・意見交換、在日外国人アンケートの結果共有等
2022年9月15日	農業観光ルート案のブラッシュアップ、インバウンド向けPRのポイント等
2023年2月（予定）	完成した農業観光ルートの共有、インバウンド需要拡大についての意見交換等（予定）

2 ルートの評価

応募のあったルート案について、8か国29名の国内在住の外国人にアンケート調査を実施し、それぞれのルートにどのような印象を持つのか結果をもとに評価しました。アンケートの結果、試食体験や収穫体験への興味が高いこと、果物や水産物の人気が高いこと等が分かりました。

3 ルートの周知・広報活動

今年度はアンケート結果や学識経験者等の意見を取り入れつつ、プロジェクトチーム会議等を通して、インバウンド向け農業観光ルートを完成させます。また、在日外国人と連携し、完成した農業観光ルートを巡った様子をSNS等で発信し、PRにも取り組みます。

さらに、農業観光ルートやインバウンド対応事業者の紹介資料を作成し、国内外へ向けて発信します。今後も多くのインバウンドに県産農林水産物の魅力を感じてもらえるよう、インバウンド対策支援を行っていきます。



農業観光ルート候補地を訪れる外国人

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2021年実績	2 5 9	1 0 0 (39%)	2 7 4	3 7 7	三 重 (61%) 愛 知 (39%)
2022年見通し	3 3 5	—	2 7 0	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
三重、愛知を中心に入荷する。各産地大きな被害もなく、順調な生育となる見通し。果実の大きさは平年並で、数量が少なかった昨年よりは小さく、L中心の入荷となる見込み。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年並の見込み。			消費者のニーズに合わせた、食味がよく、品質のよい次郎柿の生産をこれからもお願いしたい。 天候次第で数量が大きく変化するので、出荷状況が変更する場合は、早めに市場までお知らせいただきたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2021年実績	1, 0 9 3	9 2 8 (85%)	3 5 8	3 4 9	愛 知 (85%) 静 岡 (14%) 岐 阜 (1%)
2022年見通し	1, 9 0 0	—	2 9 0	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
愛知中心に静岡などから入荷する。愛知は今後の天候にもよるが、生理落果は少なく着果量は前年より多い。病虫害被害も少なく、着色は良好となる見込み。果実肥大や、生育も平年並の見込み。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。			「りんご」「みかん」「なし」など競合する果実が豊富な時期にあたるが、今年は全国の柿産地が揃って豊作であることから、売り場を確保するためにも、スタートから積極的な販売を仕掛けていく。 軟化玉が懸念されており、選果選別の徹底をお願いしたい。		

名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し

名古屋中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	37,656	185	183	171	198	北海道 39%
	2018年	37,787	234	246	227	223	長野 26%
	2019年	36,853	195	206	192	185	茨城 7%
	2020年	41,811	207	220	205	192	群馬 6%
	2021年	41,018	189	208	177	181	青森 5%
	5ヵ年平均	39,025	202	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	40,000	200	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、長野を中心に入荷する。切り上がりが早い見通し。根菜類は8月の降雨により生育が不良で、数量が減少する見込み。果菜類は産地の切り替わる品目が多く、前年の入荷量を下回る見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>							
だいこん	2017年	2,212	85	80	72	112	青森 47%
	2018年	2,662	105	117	93	113	北海道 22%
	2019年	2,152	84	92	79	86	千葉 10%
	2020年	2,321	102	118	96	98	新潟 8%
	2021年	2,451	99	125	84	91	愛知 6%
	5ヵ年平均	2,360	96	107	85	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,000	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。後続産地の千葉、愛知の入荷も徐々に始まるが、お盆あたりの長雨により、播種が上手くできず出荷が不安定となる見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
にんじん	2017年	2,865	90	98	83	88	北海道 95%
	2018年	2,262	203	210	207	194	青森 4%
	2019年	2,464	102	116	104	93	中国 1%
	2020年	2,663	126	127	131	113	
	2021年	2,779	85	93	85	80	
	5ヵ年平均	2,607	118	125	119	110	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,200	200	200	200	200	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に、一部青森からも入荷する。8月中旬の長雨により、品質が低下し、不作の見通し。後続産地の愛知、岐阜でも天候不良により、播種が遅れ数量が減る見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	139,763	201	193	181	229	北海道 26%
	2018年	134,292	264	271	258	263	長野 15%
	2019年	135,007	217	227	207	218	茨城 13%
	2020年	136,996	245	260	242	233	群馬 12%
	2021年	129,026	211	232	199	204	千葉 7%
	5カ年平均	135,017	228	—	—	—	
	2022年見通し	134,000	240	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
だいこん	2017年	12,451	77	73	61	97	青森 39%
	2018年	12,365	98	107	89	100	北海道 26%
	2019年	11,155	81	89	73	82	千葉 21%
	2020年	11,550	98	116	94	85	茨城 5%
	2021年	10,629	91	118	78	82	岩手 4%
	5カ年平均	11,630	89	100	79	90	
	2022年見通し	11,000	100	120	95	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
にんじん	2017年	9,057	88	89	82	92	北海道 92%
	2018年	7,809	213	221	206	212	青森 7%
	2019年	8,306	108	112	110	104	中国 1%
	2020年	9,177	125	128	125	123	
	2021年	9,010	76	88	70	72	
	5カ年平均	8,672	120	125	116	118	
	2022年見通し	8,500	180	185	175	180	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2017年	4,318	55	54	42	75	長野 99%
	2018年	4,511	103	143	84	92	
	2019年	4,765	57	65	51	56	
	2020年	6,026	67	81	63	59	
	2021年	5,509	60	91	53	50	
	5ヵ年平均	5,026	68	85	58	64	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	5,700	60	60	60	60	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に入荷する。今のところ、生育は良好で順調な入荷を見込む。漬物・量販の消費量が伸びず、価格は低迷する見込み。</p> <p>入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並の見込み。</p>					
キヤベツ	2017年	4,818	65	67	54	75	群馬 39% 長野 27% 茨城 17% 北海道 13% 愛知 3%
	2018年	4,924	92	94	81	107	
	2019年	4,804	75	87	83	61	
	2020年	5,154	87	95	95	76	
	2021年	5,388	81	97	77	77	
	5ヵ年平均	5,017	80	88	78	78	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	5,400	75	75	75	75	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、長野、茨城を中心に入荷する。各産地、生育は良好で、順調な入荷を見込む。業務在庫が多く量販店の消費も伸びず、荷動きが悪いため、価格は低迷する見込み。</p> <p>入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	2017年	274	618	653	545	725	岐阜 72% 愛知 12% 茨城 7% 長野 3% 静岡 3%
	2018年	218	798	872	818	736	
	2019年	268	668	679	632	687	
	2020年	250	758	813	729	731	
	2021年	320	585	651	538	586	
	5ヵ年平均	266	676	721	631	686	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	280	720	800	700	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に、愛知、茨城などから入荷する。岐阜は、平年に比べ作付面積が減少しているため、昨年より少ない見込み。数量、単価は天候次第で、大きく変化する。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

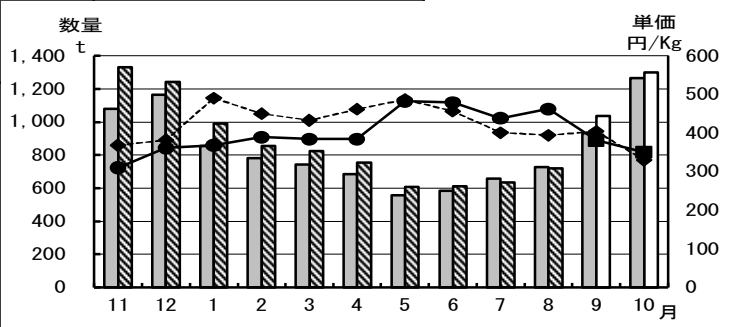
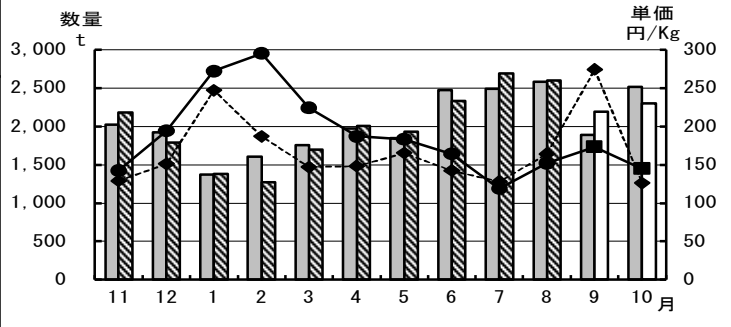
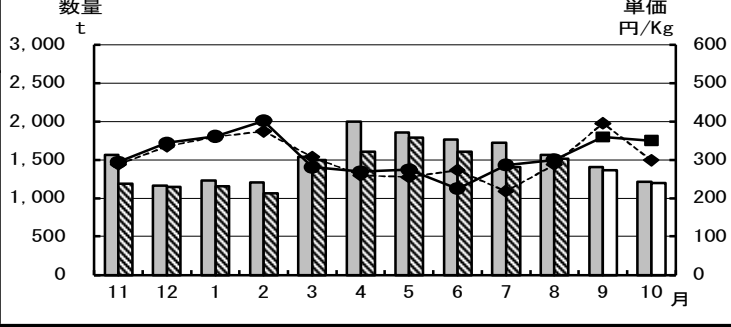
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬	(愛知産比率)	
ほうき	2017年	17,700	55	54	46	64	長野 79%
	2018年	17,065	102	138	89	84	茨城 13%
	2019年	17,523	57	66	56	52	群馬 6%
	2020年	18,691	68	87	65	53	北海道 2%
	2021年	15,288	63	96	56	51	
	5カ年平均	17,253	69	88	62	61	
	2022年見通し	16,000	75	100	70	55	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に、茨城などからの入荷となる。ピークの長野は9月の多雨により病害が発生し懸念材料となっているものの量は十分か。後続の茨城は生育順調も、多雨の影響が心配される。</p> <p>入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。</p>					
キヤベツ	2017年	18,246	56	59	48	63	群馬 56%
	2018年	18,240	87	87	77	98	岩手 14%
	2019年	17,568	74	82	78	63	茨城 11%
	2020年	17,755	90	99	99	74	千葉 10%
	2021年	17,069	77	93	68	69	長野 5%
	5カ年平均	17,776	77	84	74	74	
	2022年見通し	18,000	75	80	75	70	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心とした関東産地及び岩手などからの入荷となる。終盤となる群馬は湿害等がみられる地域はあるものの、概ね生育順調。後続の茨城、千葉も生育順調で量を増やしていくため、潤沢な出回りを見込む。</p> <p>入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。</p>					
ほうれんそう	2017年	1,468	507	484	413	667	群馬 43%
	2018年	1,232	662	762	676	586	茨城 22%
	2019年	1,284	571	569	512	626	栃木 16%
	2020年	1,322	628	702	580	610	岐阜 4%
	2021年	1,459	498	515	418	578	岩手 4%
	5カ年平均	1,353	569	600	513	614	
	2022年見通し	1,450	590	650	550	570	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城、栃木などからの入荷となる。主力の群馬を始め各産地とも生育順調。一部では高温による発芽不良や葉焼けがみられた地域があるものの回復。月を通じて潤沢な出回りが見込まれる。</p> <p>入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

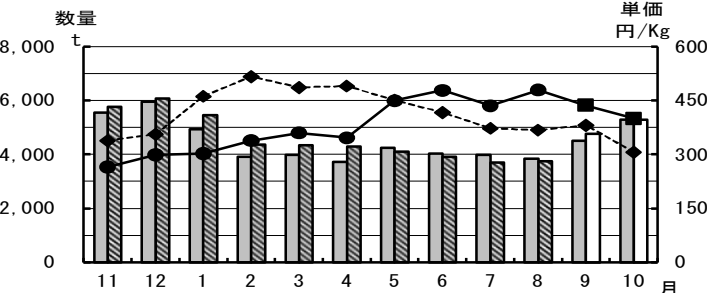
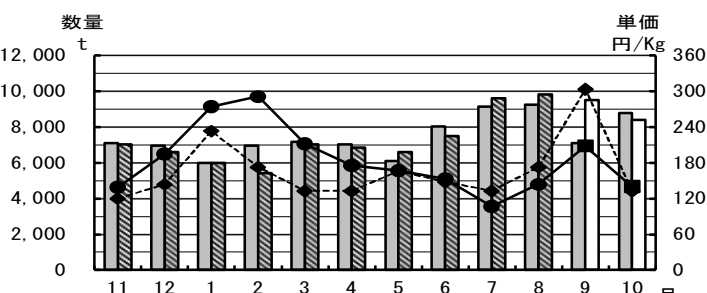
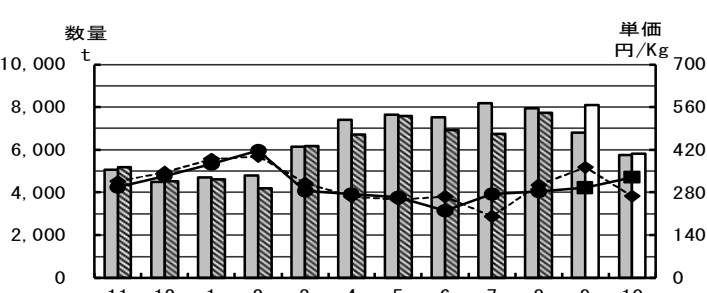
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	1,157	374	362	342	423	北海道 46%
	2018年	1,147	471	515	480	435	長野 26%
	2019年	1,083	394	394	396	395	富山 7%
	2020年	1,155	453	474	455	437	秋田 4%
	2021年	1,266	330	368	311	321	中国 3%
	5ヵ年平均	1,162	403	419	393	401	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,300	350	350	350	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、長野を中心に各産地から入荷する。天候の影響がなければ、各産地順調な入荷見込み。北海道、長野は、増量出荷となる見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
しそ	2017年	1,981	145	105	105	254	長野 55%
	2018年	2,073	207	219	198	203	茨城 40%
	2019年	2,118	162	134	148	216	兵庫 2%
	2020年	2,380	152	152	154	152	群馬 1%
	2021年	2,512	126	145	97	144	愛知 1%
	5ヵ年平均	2,213	157	151	137	188	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,300	145	145	145	145	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、茨城を中心に入荷する。長野の高冷地は降雨が多く、早めの切り上がりとなる見込み。茨城は現状は生育良好だが、定植を遅らせている産地もある。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
きゅうり	2017年	929	377	250	258	894	群馬 31%
	2018年	1,114	435	417	422	470	長野 20%
	2019年	1,151	330	259	304	466	北海道 16%
	2020年	1,222	450	425	425	509	山梨 11%
	2021年	1,213	299	254	247	432	埼玉 5%
	5ヵ年平均	1,126	378	322	328	520	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,200	350	350	350	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、長野、北海道などから入荷する。夏秋産地は、例年より早い切り上がりになり、抑制産地中心の入荷となる見込み。10月下旬には、冬春産地も入荷が始まる予定。 入荷量は前年並、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入 荷 量	卸 売 価 格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上 旬	中 旬	下 旬		
ねぎ	2017年	5, 4 8 8	3 8 5	351	356	439	秋田 20%
	2018年	5, 7 0 3	4 6 7	549	472	408	青森 20%
	2019年	5, 5 9 6	3 7 9	370	386	380	北海道 17%
	2020年	5, 9 2 4	4 4 3	486	452	399	山形 8%
	2021年	5, 2 8 1	3 0 6	325	283	311	茨城 6%
	5ヵ年平均	5, 5 9 8	3 9 8	419	392	388	
	2022年見通し	5, 3 0 0	4 0 0	450	380	370	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		秋田、青森などの東北以北産地からの入荷が中心となる。東北以北の各産地とも8月の大雨の影響で生育不良や病害発生がみられる。回復傾向の地域はあるが、稲刈り作業との兼ね合いで月の前半は少なめか。入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。					
しそ	2017年	8, 7 1 0	1 2 2	90	88	212	茨城 55%
	2018年	7, 8 7 9	2 0 5	218	196	202	長野 33%
	2019年	8, 1 3 9	1 4 8	123	134	191	群馬 4%
	2020年	8, 4 4 4	1 4 5	145	141	150	栃木 4%
	2021年	8, 7 9 2	1 3 2	148	113	135	岩手 1%
	5ヵ年平均	8, 3 9 3	1 4 9	144	133	177	
	2022年見通し	8, 4 0 0	1 4 0	150	130	140	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		茨城を中心に、長野などからの入荷となる。終盤となる長野は、降雨の影響で病害の発生が多いうえ、これまで前進化していたため切り上がり及早まるか。後続の茨城は生育順調で、量を増やしていく。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。					
きゅうり	2017年	5, 4 3 2	3 3 3	230	242	634	群馬 28%
	2018年	5, 7 8 8	4 0 3	376	400	437	埼玉 22%
	2019年	6, 1 1 9	3 1 1	235	292	440	福島 14%
	2020年	5, 5 0 5	4 2 3	398	407	468	茨城 9%
	2021年	5, 7 6 7	2 6 8	222	217	394	宮城 5%
	5ヵ年平均	5, 7 2 2	3 4 7	291	311	472	
	2022年見通し	5, 8 0 0	3 3 0	280	290	420	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		群馬、埼玉などの関東産地、福島などの東北南部産地からの入荷となる。各産地とも生育は順調。主力の群馬でみられた肥大遅れは回復傾向。終盤の福島は量を減らしていくが、総じて順調な入荷を見込む。入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。					

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2017年	636	283	293	238	360	熊本 32%
	2018年	479	466	435	497	474	愛知 29%
	2019年	740	318	308	301	357	山梨 20%
	2020年	604	394	411	374	397	徳島 11%
	2021年	709	275	292	230	318	茨城 2%
	5ヵ年平均	634	338	337	311	380	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	700	290	290	290	290	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、山梨などから入荷する。高温による成り疲れはあるものの、台風等の災害による減収は現状なし。平年以上の入荷量を見込む。 入荷量は前年並、価格は安値だった前年をやや上回る見込み。</p>					
ト マ ト	2017年	1,185	401	418	405	384	岐阜 51%
	2018年	1,002	482	505	434	513	愛知 13%
	2019年	1,145	449	588	399	373	北海道 12%
	2020年	946	530	563	525	494	熊本 11%
	2021年	1,209	359	421	316	364	三重 4%
	5ヵ年平均	1,098	439	497	404	418	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,050	450	450	450	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜、愛知、北海道などから入荷する。夏秋産地は小玉傾向となり、徐々に減少する予想。関東の抑制及び近郊の促成は、8月の猛暑の影響もあり、作柄は不良となる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	2017年	470	816	832	809	811	北海道 37%
	2018年	458	909	934	933	866	熊本 30%
	2019年	503	889	1,013	918	707	愛知 19%
	2020年	480	990	953	1,083	949	茨城 4%
	2021年	558	739	959	743	571	長野 4%
	5ヵ年平均	494	865	937	884	769	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	500	850	900	850	800	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に熊本、愛知などから入荷する。夏秋作の入荷は終盤に入り、冬春作がスタートする。中旬以降、新物と残量産地が重なり、相場としては弱まる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

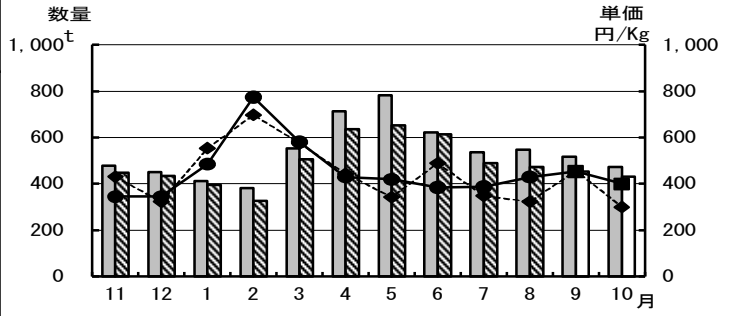
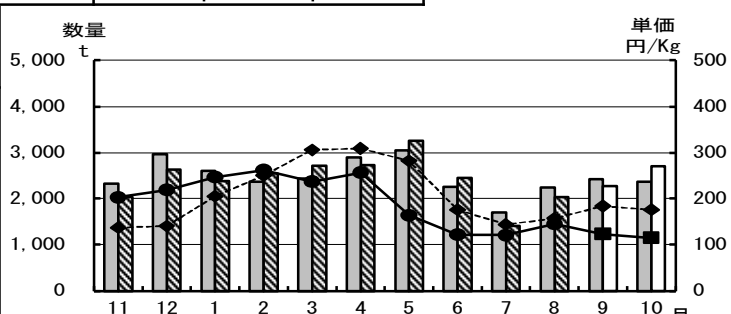
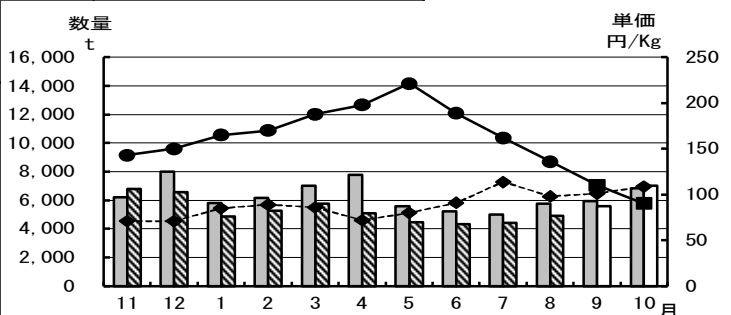
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	2017年	3,408	300	262	249	429	高知 35%
	2018年	2,804	436	391	465	450	群馬 21%
	2019年	3,511	328	302	309	374	栃木 17%
	2020年	3,158	411	411	402	419	茨城 12%
	2021年	3,582	273	269	233	329	熊本 5%
	5ヵ年平均	3,293	345	322	325	397	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	3,500	330	330	320	340	
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>高知のほか、群馬、栃木など関東産地からの入荷が中心となる。主力の高知は生育に問題なく、順次増量していく。関東産地は概ね生育順調も順次量を減らしていく。総じて不足のない入荷を見込む。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						
ト	2017年	6,169	398	400	409	385	北海道 16%
	2018年	5,819	485	470	454	542	千葉 15%
	2019年	5,963	453	555	389	408	熊本 11%
	2020年	4,933	558	585	544	537	茨城 11%
	2021年	5,825	398	434	367	396	福島 11%
	5ヵ年平均	5,742	455	485	429	450	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	5,500	500	540	450	510	
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道、福島などから千葉、熊本などへ産地の移行期を迎える。東北以北産地は降雨等の影響により小玉傾向で量を減らす。千葉、熊本は一部に着果不良がみられるも概ね生育順調。総じて入荷量は少なめか。</p> <p>入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						
ミ	2017年	1,796	765	743	783	768	北海道 15%
	2018年	1,810	855	857	876	831	茨城 15%
	2019年	1,938	855	1,017	863	715	熊本 15%
	2020年	1,711	971	951	1,046	928	千葉 12%
	2021年	2,058	714	900	729	564	青森 10%
	5ヵ年平均	1,863	828	895	854	754	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,800	850	950	850	750	
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道、茨城、熊本などからの入荷が中心となる。トマト同様に、東北以北産地から関東産地や熊本へと産地が移行する。北海道等は量を減らすも後続産地は概ね生育順調で、出回りに不足はないか。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

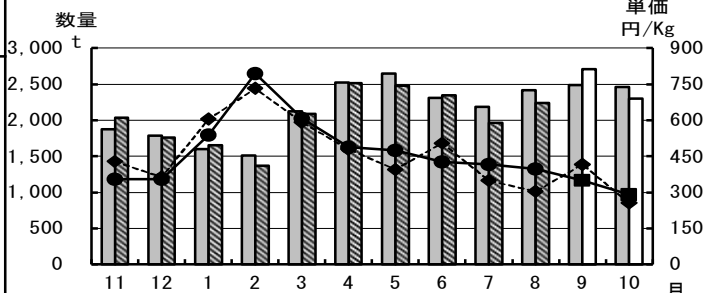
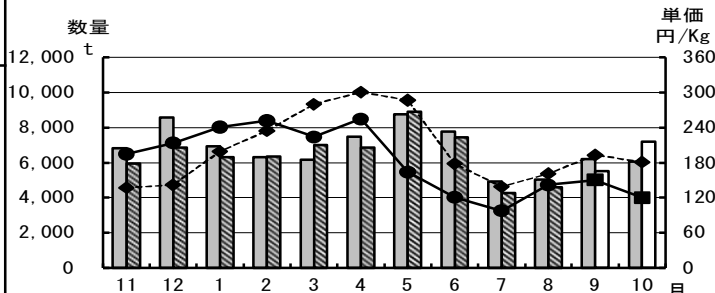
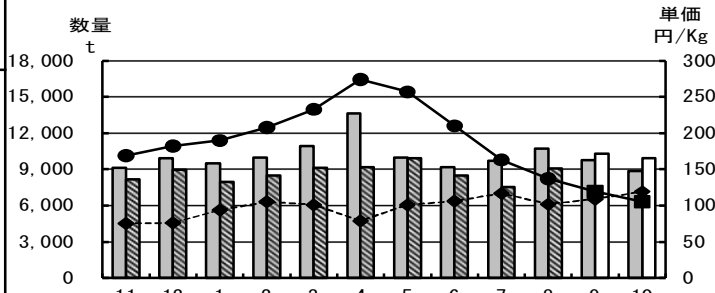
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)			
			上旬	中旬	下旬				
ピーマン	2017年	428	335	323	457	茨城	35%		
	2018年	376	577	531	547	660	北海道	22%	
	2019年	525	393	428	400	393	鹿児島	11%	
	2020年	404	599	586	636	601	青森	9%	
	2021年	474	299	389	304	288	宮崎	8%	
	5ヵ年平均	441	431	450	429	463	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2022年見通し	430	400	400	400	400			
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
	<p>茨城、北海道、鹿児島を中心に入荷する。促成産地は、例年だと順調の予定だが、今後の天候次第で数量が変化する。夏秋産地は、切り上がりが早い予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>								
	ばれいしょ	2017年	2,545	93	96	91	91	北海道	100%
2018年		2,661	112	121	107	107			
2019年		2,586	85	84	85	84			
2020年		3,339	116	112	118	117			
2021年		2,376	176	178	169	179			
5ヵ年平均		2,701	115	117	114	113	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
2022年見通し		2,700	115	115	115	115			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し									
<p>北海道からほぼ全量を入荷する。北海道は、各産地中心で、10月になり単価も下がっており、荷動き良くなる見込み。天候が良ければ、順調な入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>									
たまねぎ		2017年	6,339	72	73	72	72	北海道	99%
	2018年	6,915	90	97	91	86			
	2019年	5,684	75	75	79	75			
	2020年	7,225	72	74	73	70			
	2021年	6,848	109	102	109	116			
	5ヵ年平均	6,602	84	85	85	83	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2022年見通し	7,000	90	90	90	90			
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
	<p>北海道からほぼ全量を入荷する。順調な入荷となる見込み。早生はL大中心で、5万t以上の出荷を予想。10月の生食・道外向け出荷計画は5万6千t（昨年4万5千t）。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>								

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2017年	1,929	298	265	254	401	茨城 49%
	2018年	2,019	498	458	456	592	岩手 31%
	2019年	2,211	366	367	350	378	福島 7%
	2020年	1,898	559	539	576	566	青森 4%
	2021年	2,465	255	300	213	254	高知 4%
	5カ年平均	2,104	388	381	361	428	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,300	290	310	270	290	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、岩手からの入荷が中心となる。主力の茨城は生育順調で、安定した入荷を見込む。一方、終盤となる岩手は日照不足等の影響で病害が多発し、量を減らす。総じて潤沢な入荷が見込まれる。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
ばれいしょ	2017年	7,443	97	97	98	95	北海道 100%
	2018年	6,822	117	121	118	111	
	2019年	7,651	92	91	92	91	
	2020年	8,506	125	121	124	131	
	2021年	6,047	181	183	180	179	
	5カ年平均	7,294	120	120	120	119	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	7,200	120	120	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。前年は小玉傾向で出回りが少なく高値が続いた。今年は雨の影響で傷みがみられる地域があるものの全体としては豊作傾向。不足感のない出回りが見込まれる。</p> <p>入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	2017年	10,691	77	76	76	77	北海道 96%
	2018年	10,302	101	102	101	101	中国 4%
	2019年	9,755	81	81	82	81	
	2020年	10,496	77	78	76	76	
	2021年	8,844	119	112	120	125	
	5カ年平均	10,018	90	89	90	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	9,900	105	110	100	105	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。前年は小玉傾向で出回りが少なく高値が続いた。今年は生育順調で一部では肥大が鈍いものの数量は十分。収穫作業は順調に進み、潤沢な出回りが見込まれる。</p> <p>入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	10,895	302	338	306	280	和歌山 17%
	2018年	10,574	326	369	324	304	長野 16%
	2019年	10,078	329	369	331	306	三重 12%
	2020年	10,624	359	408	348	334	フィリピン 12%
	2021年	9,929	372	421	359	352	熊本 9%
	5ヵ年平均	10,420	337	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	10,500	350	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、りんご、かきなどが主な品目となる。りんごは、各産地、品種の多い時期で、売り場の確保が必要となる。なしは、生育良好で順調な入荷を見込む。果実全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
み	2017年	3,124	241	224	187	148	三重 36%
	2018年	3,246	250	260	252	248	熊本 27%
	2019年	2,981	243	261	243	236	和歌山 15%
	2020年	3,257	256	273	251	254	静岡 13%
	2021年	3,229	230	240	225	234	愛知 4%
	5ヵ年平均	3,167	244	252	232	224	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	3,100	240	240	240	240	
みか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	三重、熊本、和歌山などから入荷する。九州、愛媛の大産地が裏年、雨不足の影響で数量が減少する見込み。近在産地の極早生は、当初前年並を予想していたが、小玉中心の傾向。入荷量は前年をやや下回る、価格は前年をやや上回る見込み。						
か	2017年	2,002	228	254	221	225	和歌山 77%
	2018年	2,068	263	303	258	254	岐阜 12%
	2019年	1,913	243	272	235	244	愛知 5%
	2020年	1,970	280	298	262	294	三重 4%
	2021年	1,636	299	302	296	323	奈良 2%
	5ヵ年平均	1,918	261	285	253	266	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,000	270	300	260	250	
かき	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	和歌山を中心に岐阜、愛知などから入荷する。上中旬は和歌山中心の入荷となり、下旬以降は岐阜、愛知が増加する予想。和歌山の種なし柿は、前年より多い見込み。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。			注：前年の4～6月、本年の4～7月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記			

東京都中央卸売市場

9月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	44,293	298	326	299	274	和歌山 15%
	2018年	41,391	330	360	327	305	青森 11%
	2019年	40,389	335	372	331	308	熊本 10%
	2020年	40,562	377	419	358	350	長野 7%
	2021年	35,917	394	428	376	378	長崎 7%
	5ヵ年平均	40,510	345	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	39,000	370	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、かき、りんごを中心に入荷する。りんごは生育順調で平年並の入荷量、単価となる見込み。なしは新高が生育順調だが一部地域で台風の影響により小玉傾向となる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
み	2017年	13,594	204	231	206	183	熊本 28%
	2018年	12,976	237	251	236	227	長崎 23%
	2019年	11,691	221	238	221	209	愛媛 18%
	2020年	12,185	242	253	232	241	佐賀 13%
	2021年	11,486	210	208	198	222	和歌山 12%
	5ヵ年平均	12,386	223	237	219	216	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	12,000	220	230	220	210	
みか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、長崎、愛媛などから極早生中心に入荷する。極早生みかんは高温干ばつの影響により小玉傾向であるものの食味、品質は良好となる見込み。 入荷量、価格ともに前年をやや上回る見込み。						
か	2017年	8,952	226	241	213	227	和歌山 48%
	2018年	9,192	258	278	243	258	奈良 27%
	2019年	8,410	247	266	231	245	新潟 7%
	2020年	8,710	290	289	269	311	愛知 6%
	2021年	8,003	305	299	291	330	岐阜 3%
	5ヵ年平均	8,653	264	274	249	273	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	9,000	265	285	260	250	
かき	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	和歌山や奈良から刀根早生、平核無、岐阜から富有柿を中心に入荷する。朝晩涼しく寒暖差があることから着色は良好で果実肥大も順調であり、入荷量は多くなる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						

注：前年の4～6月、本年の4、5月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記

切花・鉢花の10月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 9月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2017年	1, 415	60	
		2018年	1, 468	67	
		2019年	1, 232	57	
		2020年	1, 230	50	
		2021年	1, 250	55	
	5カ年平均	1, 319	58		
	2022年見通し	1, 200	55		
	概要	愛知、長野を中心に入荷する。高冷地の出荷が中旬ごろに終わる見込み。全体的に入荷量は少なめで推移する予想。			
小 ぎ	実績	2017年	621	53	
		2018年	669	31	
		2019年	765	39	
		2020年	610	32	
		2021年	621	38	
	5カ年平均	657	39		
	2022年見通し	610	35		
	概要	愛知、長野中心の入荷予定。定植時期の天候不順の影響で、上旬は特に入荷不安定の見込み。10月通しての入荷量は少ない見込み。			
カー ネー ション	実績	2017年	961	43	
		2018年	1, 351	41	
		2019年	1, 124	43	
		2020年	938	46	
		2021年	1, 100	45	
	5カ年平均	1, 095	44		
	2022年見通し	1, 050	45		
	概要	長野中心の出荷。夜温の低下と共に、出荷量は減少の見込み。愛知県の出荷も始まる。例年に比べると、丈の長いものもちらほら。10月より輸入カーネーションの注文予対の単価の値上がりが始まる。例年に比べると、入荷のしづらい環境も予想される。			
か す み	実績	2017年	100	120	
		2018年	89	165	
		2019年	85	146	
		2020年	102	133	
		2021年	90	140	
	5カ年平均	93	140		
	2022年見通し	90	140		
	概要	福島、長野からの入荷。福島は前進出荷となっているため、10月上中旬の出荷は減少しそうである。			

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等				数量 千本	単価 円/本
ゆり	実績	2017年	295	167		
		2018年	324	161		
		2019年	293	161		
		2020年	256	182		
		2021年	280	175		
	5カ年平均		290	169		
	2022年見通し		280	175		
概要	<p>オリエンタルは新潟、岐阜、高知、宮崎、埼玉、北海道から入荷する。中下旬から暖地作の入荷もまとまってきそう。L A、鉄砲は上旬には多くないが、中旬以降、暖地作が増えていくので極端な品薄感はなさそうである。</p>					
洋ら	実績	2017年	471	64		
		2018年	585	69		
		2019年	406	73		
		2020年	298	100		
		2021年	350	80		
	5カ年平均		422	75		
	2022年見通し		335	80		
概要	<p>愛知、静岡、鹿児島、輸入が入荷予定。現地の天候状況、為替の影響、輸送コストの影響もあり輸入商材は入荷減少傾向。胡蝶蘭、シンピ、デンファレはそれにあたる。一方でオンシは下位等級中心に出荷が増える見込み。国産カトレアは入荷微増の見込み。</p>					
ばら	実績	2017年	884	73		
		2018年	834	75		
		2019年	682	73		
		2020年	662	80		
		2021年	680	80		
	5カ年平均		748	76		
	2022年見通し		670	80		
概要	<p>愛知、岐阜、三重、山形、輸入を中心に入荷予定。暖地、高冷地が出そう。暖地も夏場、短茎だったものが上位等級。また、花の状態も回復していく見込み。</p>					
枝	実績	2017年	1,488	48		
		2018年	1,442	56		
		2019年	1,281	53		
		2020年	1,198	56		
		2021年	1,200	55		
	5カ年平均		1,322	53		
	2022年見通し		1,200	55		
概要	<p>長野、岐阜を中心に入荷する。紅葉ものの引き合いが強く、ツルウメモドキなどは産地減少から、需要に対する供給が追いつかない状況。時期のカラー、赤い枝物、実物の引き合いが強まり、グリーン系のものは引き合いが弱まる。</p>					

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラゼナ	実績	2017年	16,932	883	
		2018年	16,157	710	
		2019年	15,430	831	
		2020年	25,191	764	
		2021年	18,028	1,123	
	5ヵ年平均		18,348	858	
	2022年見通し		18,000	1,122	
概要	<p>入荷量は前年並か。コンシンネなど品目によっては減少傾向の物もある。サイズ別では8、10号中心の入荷になり、流通価格の影響もあり7号に注文が集まりやすくなっているため、品薄になる可能性がある。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（59.3%）、2位沖縄（13.2%）、3位鹿児島（9.9%）となっている。</p>				
シヤコバ	実績	2017年	42,055	396	
		2018年	39,614	400	
		2019年	34,347	421	
		2020年	34,322	437	
		2021年	32,956	449	
	5ヵ年平均		36,659	419	
	2022年見通し		32,000	459	
概要	<p>入荷量は前年をわずかに下回るか。サイズ別では7号、5号未満の小鉢中心の入荷となる。</p> <p>他のサイズに比べ6号の作が少ないため、競売出荷が減少する見込み。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（78.7%）、2位埼玉（20.5%）、3位栃木（0.6%）となっている。</p>				
シクラメン	実績	2017年	616,535	174	
		2018年	578,858	188	
		2019年	531,062	178	
		2020年	549,026	186	
		2021年	542,283	187	
	5ヵ年平均		563,553	182	
	2022年見通し		523,000	192	
概要	<p>全国的にシクラメンの作付量が減少傾向にあり、入荷量は少ないと予想。10月上旬以降出荷のピークとなるガーデンシクラメンを中心に、4号鉢以上は中旬以降徐々に増え始める。台風や残暑など今後の天候にも左右されるが、各サイズ昨年よりも価格は安定する見込み。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野（33.5%）、2位愛知（31.6%）、3位北海道（8.7%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シンビジュウム	実績	2017年	2,902	1,826	
		2018年	2,844	1,757	
		2019年	3,976	1,662	
		2020年	2,225	1,265	
		2021年	4,968	1,439	
	5カ年平均		3,383	1,588	
	2022年見通し		4,900	1,449	
概要	<p>入荷量は昨年並か。生産者が減少して作付け量も減っているが、昨年同様生育が前進傾向である。8月の山上げ時に気温が低かったためと思われる。 出荷時期は今後の天候にも左右されるが、生育状況は概ね順調であり、入荷開始は10月下旬からになる予定。 前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(82.1%)、2位徳島(5.6%)、3位高知(3.7%)となっている。</p>				
カラッコ	実績	2017年	39,353	180	
		2018年	42,314	196	
		2019年	34,413	191	
		2020年	26,320	229	
		2021年	27,950	223	
	5カ年平均		34,070	201	
	2022年見通し		27,000	230	
概要	<p>前月同様、埼玉の山上げ物の入荷が続く。9月で廃業された生産者さんがいる為、入荷量は若干減か。どの規格においても八重咲きの引合いが強く、競売にかかる割合が少ないため、価格は安定すると予想される。 前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(53.4%)、2位岐阜(28.5%)、3位茨城(11.3%)となっている。</p>				
パンジー	実績	2017年	553,234	46	
		2018年	563,988	54	
		2019年	528,529	48	
		2020年	514,640	55	
		2021年	587,278	50	
	5カ年平均		549,534	51	
	2022年見通し		500,000	55	
概要	<p>入荷量は減少か。暑さによる傷み懸念から播種を遅らせており、特に前半の花付き苗は少ないかと思われる。 前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(29.5%)、2位三重(15.1%)、3位奈良(9.2%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.592
2022年10月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434